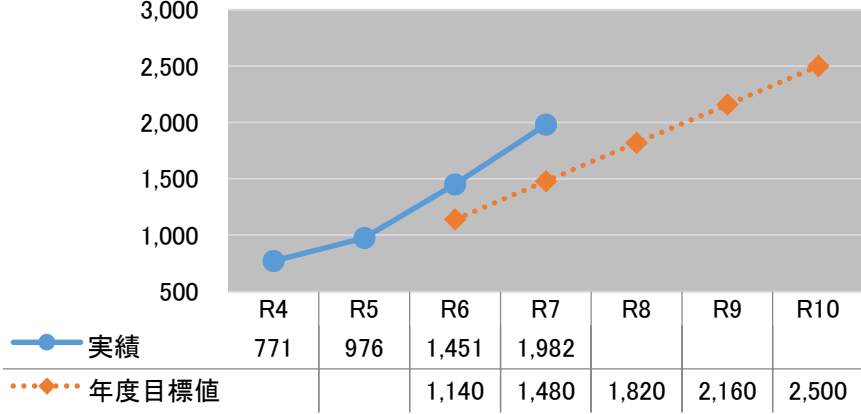


目標	VIII	生涯にわたる学びの推進								
施策	24	生涯学び、活躍できる環境整備								
主な取組		○ 「子ども大学」の充実に向けた支援								
		○ リカレント教育の推進と学びの成果の活用の支援								
		○ げんきプラザを活用した体験活動の充実								
		○ 障害者の生涯を通じた学びの支援								
		○ 県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実								
担当課		生涯学習推進課								
主な事業										
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課						
生涯学習情報の発信	0	学ぶ意欲を持つ社会人の学習や県民の生涯学習活動の支援・充実のため、生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」により、指導者やイベント、講座などの情報を提供する。 ・指導者登録数：240人 ・イベント掲載数（令和7年度実施イベント）：1,982件 ・指導者紹介数：27件	令和7年度のイベント掲載数が、令和6年度と比較し500件以上増加していることから、情報発信が社会人の学習や県民の生涯学習活動の支援・充実につながったと考える。 一方で、学んだ知識・技能や経験等を生かす場が効率的に見つけられるよう、引き続き「生涯学習ステーション」の機能拡充を検討する必要がある。	生推						
施策指標の達成状況・原因分析	● 1年間に生涯学習に取り組んだ人の割合（％） [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]			生推						
	80 78 76 74 72 70 68 66 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 74.6 71.1 73.4 73.8 ●—● 実績 ◆-◆-◆ 年度目標値 <table><tr><td></td><td></td><td></td><td>74.0</td><td>75.0</td><td>76.0</td><td>77.0</td><td>78.0</td></tr></table>							74.0	75.0	76.0
			74.0	75.0	76.0	77.0	78.0			
【原因分析】 令和7年度は令和6年度と比較して生涯学習を行った人の割合が0.4ポイント増加した。 前年度同様、生涯学習活動として比較的参加しやすい「講座・講演」、「演劇・娯楽・エンタメ」の分野を中心に情報を収集し、掲載数が令和6年度より531件増加した。県民に生涯学習に取り組む機会を幅広く提供したことで、生涯学習を行う人が増加したと考えられる。 一方で、策定時の値までは回復していない。県政サポーターアンケートの質問内容「1年間に生涯学習活動をしなかった理由」に対し、「仕事が多忙で時間がない」が前年度に引き続き一番多い回答率であった（34.2％）。また、前年度に比べて「きっかけがつかめない」という選択肢が5.5ポイント増加した。時間の制約がある中で、気軽に生涯学習を行うための環境が整っていないことが一因として考えられる。										

学識経験者の 意見・提言	人生100年時代において、生涯学習の重要性はますます高まっている。継続的に学び続ける環境の整備は、個人の自己実現や社会参加を支える基盤であり、自治体や教育機関が積極的に推進すべき課題である。また、企業におけるリスクリング（学び直し）の動きが活発化している現状を踏まえ、自治体と企業の連携を強化し、生涯学習の機会を拡充することが望ましい。こうした協働によって、質の高い学びの環境が一層充実すると期待する。	
	生涯学習は幅広い分野を含むが、自治体の役割として博物館や図書館活用などの活用が重要と考える。これら施設での企画力を高め、多様な学習機会の創出に努める必要があると考える。	
今後の取組	多くの県民が継続的に生涯学習に取り組める環境を整えるため、引き続き「生涯学習ステーション」により指導者やイベント・講座などの情報を発信していく。また、県民向けのリスキリングを含むリカレント教育については、自治体と企業が連携して取組を実施していくための方法を研究していく。 社会教育施設を活用して多様な学習機会を提供するため、各げんきプラザやその周辺環境の特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の更なる充実を図る。加えて、図書館では、企業や県民のニーズを踏まえた講座をオンラインで配信し、場所や時間にとらわれない学習機会を提供する。	生推

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	25	社会教育の推進		
主な取組		○ 新しい県立図書館の整備の検討・推進		
		○ 多様な学習機会の提供		
		○ 社会教育関係団体等の活動への支援		
		○ 学びを活用した地域課題解決への支援		
担当課		生涯学習推進課、文化財・博物館課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
新県立図書館 整備検討事業	12, 096	新たな時代にふさわしい県立図書館の整備に向けた検討を行う。 令和7年度は、「新埼玉県立図書館基本構想」における新県立図書館の目指す図書館像の実現に向け、新県立図書館に係る具体的な機能やサービス、施設規模、設置場所などをまとめた基本計画を策定する。また、引き続き、地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブの充実を図る。 ○新埼玉県立図書館基本計画検討委員会の開催 ・開催回数 6回 ○新埼玉県立図書館基本計画（案）の公表 ・県民コメントの実施 令和8年3月11日～4月10日 ○地域資料のデジタル化 ・226点	新埼玉県立図書館基本計画（案）をまとめ、公表することができた。また、地域資料のデジタル化を実施し、デジタルアーカイブの充実を図ることができた。 なお、デジタル化の対象資料は約800点で、令和6年度から5年かけて対応する予定であり、令和7年度（2年目）時点の進捗は順調である。また、当該資料は「相当年数が経過し損傷が激しい地域資料」であるため、慎重な取扱いが求められる一方で、資料としての機能が失われる前に、早期に対応を進める必要があることから、引き続き、地域資料のデジタル化に取り組んでいく。	生推
博物館等における多様な学習プログラムの提供	19, 679	県民の豊かな感性や創造性を育むため、県立博物館・美術館等において、体験プログラム等の教育普及活動を実施する。 ○歴史と民俗の博物館（常設体験プログラム開館日全日実施、講座・体験プログラム32回実施、計7, 843人参加、出前授業等44校実施、2, 536人参加） ○さきたま史跡の博物館（講座・体験プログラム30回実施、計1, 016人参加、出前授業等70校実施、3, 177人参加） ○嵐山史跡の博物館（講座・体験プログラム7回実施、計1, 025人参加） ○近代美術館（講座・体験プログラム35回実施、計3, 351人参加、出前授業68校実施、4, 608人参加）	各博物館・美術館等の特性や事業目的に合わせた体験プログラム等の教育普及活動や、児童生徒への出前授業の実施により、県民が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を提供することができた。	文博

		○自然の博物館（講座・体験プログラム14回実施、計378人参加、出前授業等32校実施、1,708人参加） ○川の博物館（講座・体験プログラム28回実施、計6,468人参加、出前授業61校実施、3,147人参加） ○さいたま文学館（講座・体験プログラム18回実施、計490人参加） ○文書館（講座・体験プログラム12回実施、計776人参加、出前授業7校実施、519人参加）		
先進事例の発信	0	県民に多様な学習機会を提供するため、生涯学習ステーション等を通じて市町村等で実施されるオンライン講座やデジタルデバイド解消に向けた講座等の情報提供を行う。 ○市町村等で実施されるオンライン講座・イベント（一部オンライン実施・オンライン併用含む）掲載数 99件 ○デジタルデバイド解消に向けた講座・イベント掲載数 16件	市町村等で実施されるオンライン講座や初心者向けパソコン教室をはじめとしたデジタルデバイド解消に向けた講座等の情報を収集し、生涯学習ステーションで発信することで県民に多様な学習機会を提供することができた。	生推
学校応援団推進事業（施策2、17、23にも掲載）	7,516	学校の教育活動の活性化と家庭・地域の教育力の向上を図るため、市町村における、学校の学習活動・安心安全の確保・環境整備等の支援を行う「学校応援団」の活動を推進する。 ○補助金交付による市町村教育委員会の取組への支援：28市町 ○各市町村での活動内容の充実への支援 ・地域学校協働活動推進委員会の実施（2回） ・地域学校協働活動担当者会議の実施（4事務所 各2回） ・地域学校協働活動推進に関する研究委嘱（4市、期間：令和6～7年度） ・地域学校協働活動推進セミナーの実施（2回、参加人数：延べ165人） ・地域学校協働活動実践交流会の実施（1回、参加人数：50人） ・地域学校協働活動実践発表会の開催（4事務所 各1回） ・研究委嘱実践発表の動画配信（視聴回数：1,078回） ○各種情報発信 ・情報通信『COLLABO』の発行（5回） ・県政出前講座等での事業説明（10回） ・県教委だより、埼玉教育への掲載 ・実践事例集の作成及び県ホームページでの公開	各取組を着実に推進し、学校の教育活動の活性化と家庭・地域の教育力の向上を図った。 地域学校協働活動推進員やコーディネーター、教職員、市町村担当者などが参加するセミナーや研修会においては、地域学校協働活動に関する講演やワークショップを実施し、地域と学校とが連携・協働することの意義について理解を深めるとともに、地域学校協働活動を担う人材育成に努めた。参加者の声を受けて、地域学校協働活動実践交流会を企画し、実践において重要な点をまとめ、情報通信に掲載した。 また、4市への研究委嘱では、「地域で子供を育てる意識の向上に向けた『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組』の推進」をテーマとし、市町村担当者と研究対象校への視察や打合せに参加するなど伴走支援を行うことで、研究内容の充実に努めた。今後も、セミナーや研修会の内容を工夫し、各種情報発信を通じて、地域学校協働活動の周知を図るとともに、地域と学校の連携強化や、地域全体で子供たちの学びや成長を支える活動を推進していく。	生推

施策指標の達成状況・原因分析	●県が情報発信している社会教育施設の講座等の件数（件） [出典：埼玉県による実績調査]							生推																						
	【原因分析】 県各課所館、各市町村、県内各大学等から収集する講座やイベント情報のジャンルを増やすとともに、これまで情報提供がなかった団体の講座・イベント情報も掲載するなど、幅広く情報収集・発信を行った。これらのことから、情報発信件数が増加したものと考えられる。 <table><thead><tr><th></th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th><th>R9</th><th>R10</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績</td><td>771</td><td>976</td><td>1,451</td><td>1,982</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>年度目標値</td><td></td><td></td><td>1,140</td><td>1,480</td><td>1,820</td><td>2,160</td><td>2,500</td></tr></tbody></table>									R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	実績	771	976	1,451	1,982				年度目標値			1,140	1,480	1,820
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10																							
実績	771	976	1,451	1,982																										
年度目標値			1,140	1,480	1,820	2,160	2,500																							
学識経験者の意見・提言	社会教育施設の講座数および情報発信数が順調に増加している点は高く評価できる。しかし、情報発信の拡充が講座の活用につながっているか、本質的な効果検証が課題である。講座の質や利用者の満足度も慎重に分析すべきであり、単なる数の増加だけでなく、内容の充実を同時に追求する必要がある。今後は、質と量の両面をバランス良く進める取組を期待する。																													
	社会教育施設の講座件数が増加し、目標値を超えている点は高く評価できる。デジタルデバイドについては高齢者にとって厳しい問題であり、社会から取り残されないような支援体制の検討を継続していただきたい。																													
今後の取組	より多くの講座の活用を図るため、市町村等と連携して「生涯学習ステーション」で掲載している講座やイベント等の参加者の満足度等を把握し、講座内容の充実につなげていく方法の研究を行っていく。 また、デジタルデバイドの解消を図り、誰一人取り残されない環境作りに向けて、関連講座等を充実させられるように取り組んでいく。 新県立図書館の検討については、令和8年5月に策定した「新埼玉県立図書館基本計画」に基づき、新県立図書館システムに関する基本要件の検討を行う。また、地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブの充実を図る。							生推																						
	引き続き、SNSをはじめとした多様な広報活動を実施することにより利用者数の増加に努めるとともに、アンケート結果を活用し講座の内容検討等を行い、満足度の高い講座を提供していく。							文博																						